

中北の地域社会（community）の心の交流（communication）をめざします

八丈島・でっかい体験 2022

やまなし少年海洋道中

やまなし少年海洋道中が3年ぶりに実施され、県内の中学生が参加しました。8月1日から8日間の八丈島での現地研修は、感染者が発生した場合には、その時点で残りの研修は中止という厳しい条件のもと、緊張感を持った出発となりました。

真夏の活動に加え、コロナ禍で参加者の体力低下が心配され、これまで2日間で島内を一周していた「サバイバル踏破」を、時間と距離を短縮して活動強度を下げた「八丈チャレンジウォーク」として行いました。今年は八丈島でも珍しい激しい雷雨になりましたが、悪天候にも耐え、40km以上歩いた足の痛みや疲れを超えてゴールする生徒の表情は満足感であふれ、さらに班内の関わり合いも強くなっていました。



【参加生徒】2日間かけて八丈島を巡るチャレンジウォーク。重い荷物を班の仲間と分担して運びました。事前研修では話もできなかった仲間と、八丈島へ向かう船の中で仲良くなり、今では同じメンバーでもう一度八丈島へ行きたいと思うほどです。研修中、シャワーは毎日使用できたものの、風呂は2回だけ。自然への影響を考え、水や洗剤の使用も控えていました。帰ってからは、料理の洗い物で油を流さないようにすることを、前よりも心がけるようになりました。（韮崎市内中学校生徒）



【引率教員】3年ぶりの事業実施でしたが、今年も「でっかい体験」をすることができました。八丈島の空・海・人は温かく迎えてくれ、困難に対して参加者も指導者も協力しながら乗り切ることができました。多くの方々の支えの中で実施できたことに感謝いたします。ありがとうございました。（中央市立田富中学校 長沼大教諭）

【大学生ボランティアリーダー】どんな時も仲間と共に諦めず最後までやりきった姿を見て、将来教員になることも考えている私にとって大きな経験となりました。また、指導者の皆様の子どもへの関わり方や配慮など参考になる点が沢山ありました。私も将来子どもたちの無限の可能性を信じて、寄り添いサポートしてあげられるような大人になりたいです。（山梨大学教育学部 眞島伶於）

【主催者】withコロナで臨む事業再開の年で、「感染予防対策」「安全管理」が大きな課題でした。参加者には、家族も含めた事前の健康チェックに加え、現地研修中は朝晩の検温・健康観察の徹底をお願いし、細心の注意を払うなど協力していただきました。新たな試みとして、Googleクラスルームを活用し、保護者の方に毎日活動の様子をお知らせすることができました。生き生きと楽しむ子ども様子を、見取っていただくことで参加したことを一緒に喜んでいただけたのが嬉しかったです。来年度も、ぜひ多くの生徒の皆さんに参加してほしいです。（県教育委員会生涯学習課担当）

Q. 「やまなし少年海洋道中」とは？

A. 県内中学生を対象に、洋上生活体験や八丈島での自然体験活動を行います。活動を通して、友情・連帯・奉仕の精神を涵養するとともに、地域リーダーとしての資質向上を図ることを目的とし、心豊かでたくましい青少年の育成を目指しています。

8月6日(土)、山梨県立防災安全センター(中央市)で、中北地区の小学生親子を対象に「こどものための防災体験」が開催されました。内容は、地震体験、煙体験、ロープの結び方、ペットボトルを使ったろ過器の作製、天ぷら油を利用したろうそく作りと盛りだくさんでした。

講師は、県立防災安全センターの指導員の皆さん。これまで数多くの災害現場に足を運び、救援・救護活動を行っています。

講師の気迫あふれる講義の始まりに、参加者は真剣そのものです。

「学校で地震が起きたら、机の下にもぐる。」とすぐに答えた子どもたちも、「家で起きたらどうする?」「トイレにいたら?」「お風呂に入っていたら?」の質問に悩む小学生たち。あれこれ想像して、様々な意見が飛び交います。



「地震装置で机の下に避難したけど、机の脚が動いていた。家で起こったら考えると、学校の訓練とは違うことがわかった。」(小学校3年生)

ペットボトルを使ったろ過器で泥水をろ過して数分。最初の透明な一滴が落ちると「おおーっ。」と声が上がります。また、空き缶に天ぷら油を注ぎ、浸したティッシュの芯に火がともると、普段火を見ない子どもは驚きを隠せない様子です。

災害時に何をどう工夫できるのか、今回の体験を通して、身近にあるものを見る目が変わっていったようです。

「コロナウイルスの影響で延期や中止も検討しましたが、無事、開催することができて大変嬉しく思います。未来を担う子どもたちが、防災について関心を持つことは非常に重要だと思うので、この体験をきっかけに今後も学びを深めていただきたいです。」(企画した中北地域県民センター 大原さん)

なお、山梨県立防災安全センターでは、地震体験装置をはじめとした各種体験や見学が可能です。また、出張も行っています。個人、自治会、自主防災組織、子供クラブなどの地域団体、幼保・小中高校などに合わせたプログラムもあります。



9月は防災月間です。想像力を駆使して、災害対策を再確認しましょう。

山梨県立防災安全センター (<https://yamanashi-bousai.or.jp>)

黒いゴミ袋? 大きめのストール? ポケットが多いベスト? ~非常持ち出し袋の中身~

「女性の皆さんへ」と、防災講座の合間に、指導員の方から一枚の資料をいただきました。資料には、「女性が非常持ち出し袋に加えたいもの」の一覧と説明がありました。



ちなみに、黒いゴミ袋(90リットルなど)は穴を開けて頭からすっぽりかぶれば防寒や着替えの際に、大きめのストールは、防寒、床に敷く、荷物をまとめる際に役立つそうです。また、ポケットが多いベストは荷物を分散でき、手を使わないので移動が楽になるとのことです。また、使い捨てマスクは感染防止だけでなく、寝顔を見られるのが気になり眠れない方にも便利だそうです。

よく見かける非常持ち出し袋には、誰もが必要なものが入っています。子どもがいたら、赤ちゃんがいたら、高齢者がいたら。この機会に、非常持ち出し袋の中身を点検してみませんか。

♪甲斐の山々 陽に映えて～

中北教室のある北巨摩合同庁舎に武田節が響きます。

実は、中北教室1年生は、10月の勸学院祭で披露する予定だったのですが、9月になって中止が決定。しかしながら、講師の先生にも依頼済みで練習の予定も組んでいたため、せっかくならと、講座のある午後、自主活動として有志が集まり、1回目の練習がスタートしました。

今回講師を引きうけてくださったのは、新現代舞踊千祥流（せんじょうりゅう）家元 千祥弥生さん。最初こそ手や足の動きがぎこちない様子で、不安そうな表情の学生の皆さんでしたが、千祥さんの丁寧な指導のおかげで、一時間半の練習の後は晴れやかな表情になっていました。「音楽に合わせて体を動かすのは『脳トレ』よね。」と、笑顔があふれていました。

「人前で披露することは目標やモチベーションにつながるの、良い機会があればいいのですが…。」（教室担当）

ウィズコロナの生活が続く中で、前向きに取り組む皆さんの姿に力をもらいました。



#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。

夏休み明けの学校で考えていること～地域教育のあり方を思う～

山梨県立北杜高等学校長 河手由美香

思春期は、自分と他人との違いを気にして自我の殻を厚くし、孤独になりがちです。マスク着用が当たり前のコロナ禍に生きる子ども達は、社会や大人の事情を敏感に察知し、自分の殻を破ることに臆病になりがちで、一層、他人に気を遣いながら生きているように感じます。家庭でもいい子でいなければならない、何かの役に立つなど成果を出さなければ身近な人にも認めてもらえず自分の存在意義を実感できない、迷惑をかけてはいけないから友達にも先生にも相談できない…。そんな子ども達がぼろっと本音を言えて、素の自分になれる相手は、縦の繋がりでも、横の繋がりでもなく、ナナメの関係の大人、すなわち、直接的な利害関係がなくゆるい関係でつながっている人のようです。

やまなしの教育に関するアンケート調査（2018）で地域社会における人間関係の希薄さが取り上げられましたが、一方で、子育ての成果で家族全体を価値づける世間の目へのプレッシャー、そんな地域社会の息苦しさによる親の孤立も心配されます。子ども達以上に「～でなければならない」と思い詰め、親も疲弊していないか気になっています。

「もうすぐ二学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。」2015年の夏、鎌倉市図書館がTwitterに投稿したこのツイートは大きな注目を集めました。本の中の世界観は今までの自分の世界観を変えるきっかけになり、本は違う世界があることを気づかせてくれます。「これしかない」と狭い世界へ入り込んで選択肢がなくなっていく行き詰まる苦しさを本は救ってくれます。一人一人の立場を尊重し、誰も排除しない図書館は、誰からも責められずに、あなたはあなたのままで、ここにいていいんだよという安息を得られる場所です。

コロナ禍の夏休み明け、大人にも、子どもにも図書館のような場所や、本のような関わりが必要なのではないかと感じています。こんなことをヒントに、地域教育のあり方を考えていきたいと思っています。

地域の環境を私たちの手で

南アルプス市立白根百田小学校
山梨県立甲府城西高等学校

環境省では、環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関して顕著な功績があった個人・団体に対し、環境大臣表彰を行っています。今年度、中北地区では、南アルプス市立白根百田小学校、県立甲府城西高等学校が表彰されました。

南アルプス市立白根百田小学校

平成17年度から13年間、国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」に参加し、地域美化活動として、児童と教職員が国道沿いの花壇に定期的な花苗を植え、水やりや草取りを行いました。プログラム終了後は、校内の学校農園で野菜を育て、学校花壇で花を手入れしています。



平成19年度からは「地域環境美化登校」を実施。5月と10月に児童がゴミを拾いながら登校したり、参観日に児童と保護者が一緒に通学路のゴミを拾ったりしています（現在はコロナ禍のため停止）。また、身近な環境への意識を高めるために、平成21年度から山梨県エコティーチャーや富士山レンジャーをゲストティーチャーとして招いての「環境学習会」、令和2年度からはエコパ伊奈ヶ湖において学習プログラムに基づき、南アルプス市の自然や動植物についての理解を深め、美しい自然を大切にすることを学んでいます。

「身近な環境整備や美化活動の実施、ふるさとの自然や環境についての学びを継続しています。活動をとおり、環境問題や地域美化について家庭で話し合うきっかけとなっています。地域を愛し、南アルプスの美しい自然を大切にできる子どもたちが育っています。」（望月政幸校長）

山梨県立甲府城西高等学校

平成22年より、サッカー部が河川等の美化活動やイワナなどの放流活動を行う「未来の荒川をつくる会」の活動に参加しています。昨年度、会の清掃隊隊長の河野芳樹さんの講演がきっかけで、有志を募って参加しようという広がりを見せました。コロナ禍で中断した時期もありましたが、今年7月に再び参加しました。

「猛暑の中、茂みからガラスやプラスチックごみを探すのは大変な作業でした。山積みのゴミ袋を見て、疲労感よりも達成感を強く感じました。」

「想像以上に様々なごみが落ちていました。終わった後は、心もすっきりして参加して良かったと思いました。他の人も活動に参加してもらえよう呼びかけていきたいです。」（参加した生徒の感想）

「生徒たちは、授業で河野さんの話を聞き、自分たちができることを考え行動につなげました。今後もさらに多くの生徒に呼びかけていき、継続的に活動していきたいと思っています。」（担当教諭）



中北地区地域教育フォーラム（10/27）のお知らせ

今年度の中北地区地域教育フォーラムは

10月27日(木) 午後2時15分から、双葉ふれあい文化館にて開催予定！

開会行事では、県立甲府工業高校応援団の皆さんの演舞披露、

講演会では、山梨県立図書館長 金田一秀穂 氏に

「言葉の力と地域教育」について語っていただきます。

詳細は、9月中旬の地域教育推進連絡協議会の案内をご覧ください。

